

# 僧見聞録

## 『在家からの出家』

会津支部 秀長寺住職  
竹内 正龍

この度二月二日に起きました能登半島地震で被災された方々には心からお見舞い申し上げます。また、復興に尽力されている皆様には安全に留意されてご活躍されることを祈りいたします。

私は在家で東京都出身ですが、先代住職の長女との結婚等様々なご縁をいただきまして、二年間總持寺祖院で修行を終えて令和二年八月より福島県会津若松市の秀長寺で住職をさせていただいております。

中学生の時に先輩の乗っているバイクに憧れて、高校生になりバイクの免許を取得して仲間とツーリングで様々な場所に出かけたり、オフロードバイクでコースを走ったりとバイクに乗って楽しんでるうちに、自分でバイクをメンテナンスをする様になり走るだけでなく、メンテナンスの楽しさを知り、バイクや車の整備に興味を持ち自動車整備士として二十年近くスバルや中古車販売の一般の企業で働いていました。整備士とはいえ車の点検・整備だけしてれば良いという訳ではなく、年数を重ねるにつれ車検整備の最終



年近くスバルや中古車販売の一般の企業で働いていました。整備士とはいえ車の点検・整備だけしてれば良いという訳ではなく、年数を重ねるにつれ車検整備の最終

検査や受付、クレーム対応等の様々な接客業務も行う為、人見知りだった私は接客に苦労しましたが、クレームを言いに来るお客様は嫌なお客様ではなく、リピーターになっていただけの可能性がある良いお客様なのだとか、私に様々な気付きを与えてくれて良い経験になっています。

この様に、生まれてから四十年近くお寺とはあまり縁の無い生活をしていたので、弟子のいなかた先代住職や義母に「お寺を継がないか？」と言われましたが、お寺の事も何かわからない私なんかが勤まるわけがないと思いついて断りました。

しかし、平成二十九年二月に突然先代住職が遷化され、続けて同年五月に先代住職が遷化された後継ぎがいなくなり、お檀家さん達から先代住職の血を受け継いでいる息子に「将来秀長寺を継いでくれ！」と願いを託しているのを聞いて、息子にだけ任せる訳にはいかないといい出家する決意をいたしました。

まだまだ経験が少なく未熟な為、大般若波羅蜜多經六百巻を写経する様な偉大な先代住職と比較される事もあります。先代住職の様にはなれなくても社会経験で培った考え方(どの様に対応すればリピーターになってもらえるか？来店しやすい店舗にするにはどうすれば良いか？等)を活かしてお檀家さんとの対応や日々の檀務に精進してまいります。

合掌



右から2番目が筆者

### 編集後記

一二号を初めて編集する際は不安なスタートでしたが、皆様のお力添えにより二年間を勤めることができました。今号は六十周年特別号として二〇頁となり、今まで以上にお世話になりました。本当にありがとうございます。

委員長 安倍 元宏 九拝

精進委員として二年間、東日本大震災十三回忌慰霊法要や六十周年事業等の行事に活動を発信する立場として参加出来た事は、貴重な経験でした。最後に精進作成にご協力頂いた方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。

事務局長 秋山 真宏 九拝

青年会員、精進委員として、六十周年記念事業への参加の道禅フェスなどの価値あるイベントに携わらせていただきました。多くの方々の出会い、交流を通じて、この二年間は非常に有意義なものとなりました。この場を借りて、心から感謝申し上げます。

庶務 西川 秀哉 九拝

曹洞宗福島県青年会六十周年、東日本大震災十三回忌という節目での精進作成というご縁を頂いた事に感謝申し上げます。皆様のお陰を持ちまして県中支部での精進を発行する事が出来ました。ありがとうございます。

会計 高桑 清二 九拝



## 精進

第115号

令和6年3月31日

【発行所】  
〒965-0822  
福島県会津若松市花見ヶ丘3丁目3-8  
恵倫寺内

曹洞宗福島県青年会

TEL.0242-26-2882

【発行責任者】佐藤 泰典  
【編集責任者】安倍 元宏

目次

- 会長挨拶 ..... 2
- 六十周年記念事業委員長挨拶 ..... 3
- 宗務所長老師・歴代会長祝辞 ..... 4
- 禅フェス特集記事 ..... 6
- 禅フェスアンケート報告 ..... 10
- 禅フェスフォトギャラリー ..... 12
- 六十周年記念植樹 続報 ..... 13
- インダス源流域緑化プロジェクト ..... 14
- 東日本大震災十三回忌慰霊の記録 ..... 15
- 六十年のあゆみ・副会長挨拶 ..... 16
- 支部だより(東北・県中・県南) ..... 17
- 支部だより(相双・いわき・会津) ..... 18
- いわき豪雨・能登地震ボランティア ..... 19
- 東日本大震災慰霊碑供養 ..... 18
- 令和五年度協賛寺院一覧・退会者紹介 ..... 19
- 僧見聞録・編集後記 ..... 19

曹洞宗福島県青年会会報

第115号

2024.3.31

60周年記念  
特別号





# 会長挨拶

会長 佐藤泰典

青年会会員各位におかれましては、益々ご清祥のことと拝察申し上げます。また県内御寺院諸老師の皆様には平素より青年会活動に対しご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。元日に発災した能登半島地震においては、未だ困難な生活をされている方が多く、日常を取り戻す努力が日々進められています。当会としても水などの支援物資の供給、義援金、總持寺祖院前での炊き出し活動を行い、微力ながら支援をさせて頂きました。被災された方々の一日でも早い生活改善を祈念申し上げます。

気が付けば頂いた二年の任期も間もなく終わりを迎えようとしております。創立六十周年を迎えた今期の集大成として開催した「禅フェス」では、悪天候の中五百名を超す方が来場し、日曜日にもかかわらず五十名以上の青年会員のお手伝いも頂き、大盛況のイベントとなりました。また、四十三年目の頒布となつた令和六年版禅の暦は、初の試みとなるA4版サイズも加えての頒布となりましたが、ご好評をいただき例年以上に多くの御寺院様にお届けすることが出来ました。この二つの事業を成功に導いてくれた周年委員会、カレンダー委員会の皆様のご尽力、ご協力に感謝申し上げます。

改めて二年間を振り返ると、絆の道慰霊行脚、東日本大震災十三回忌法要、HP・SNSの開設・活用、ロゴマーク作成、頒布物制作、ラダック研修、禅フェス開催、A4版禅の暦制作など、就任当初思い描いていた以上の事業、活動を行うことが出来ました。会長として、活動に対する情熱だけは誰にも負けないつもりで全力で取り組みましたが、事業を成立させるにはそれだけではあまりにも不十分でした。足りない部分を、各委員長、執行部、支部長の皆様が豊富な知識、経験で補っていただき、時には温かい理解、時には厳しい指摘を頂きながら何とか各事業を成立させることが出来ました。そして何より力となつたのは、行事ごとに大勢の会員が参加して下さったことでした。青年会の最大の魅力の一つであるマンパワー「大衆の威神力」に勇気づけられた場面が沢山ありました。本当に感謝しかありません。

伝光録の一節に「二器の水を二器に伝うるが如し」とあります。先人の方々が築き上げた曹福青の偉大な歴史に、新たな二年間を加えることが出来ました。私自身の青年会活動も今期で終わりとなりますが、今後はOB会員として、曹福青の益々の隆盛、進化を応援していきたいと思っております。

先達立志六十年  
秋雨時滿注眼前  
青年僧集大成殿  
新時代法輪茲転

(禅フェスオープニング大般若祈禱 法語より)



# 六十周年記念事業を終えて

創立六十周年事業委員会

実行委員長 楠 恭信

会員各位の力と思いの結集によつて、曹洞宗福島県青年会創立六十周年記念事業の一切を無事に終えることができました。と、心より御礼申し上げます。

コロナ禍の三年前に実行委員長長の打診があった際、この状況で何ができるか、ではなく、今こそ何をすべきなのか、という視点で考えなければとの思いで役を受けました。私自身、地域や社会に関わるなかで、僧侶に対する期待感や、仏教を求める声を肌で感じていたこともあり、その声に青年僧として応えられよう事業、かつ、曹福青のスケールメリットを最大限に生かせれば、六十周年にふさわしく、関わった会員が得るものも大きいと考えたのです。

顔合わせの会議でおおまかなプランを提案した時点では、とても現実的ではないと感じた人が多かったと思います。それでも、なんだか面白そう、これができたら何か変わるかもしれない、そんな期待感を持ってもらえたのでしよう。そこから準備委員会を経て周年事業実行委員会が組織され、幾度となく会議を重ね、事業の意義やそこにかける思いを共有していきました。何よりの事業実現のカギは、自分たちで作り上げていくという意識をいかに高めるかにあり、各支部から選出された周年事業委員会のメンバーが自分ごととして前向きに取り組んでくれたことが、事業の大きな推進力となつていきました。

昨年度は東日本大震災十三回忌への供養を軸として、会員の祈りを重ねていく東日本大震災慰霊行脚「絆の道」を実施。百二十キロメートルを十三回に分け、のべ百八十人で合計二百万歩の行脚は、自ずと十三回忌慰霊法要へと思いを集約することにになりました。三月十一日には被災地からオンライン法要を営み、思いを寄せる多くの方と祈りの時を共にすることができ、僧侶としての務めと、さらには自分たちの姿によって心が動かされる方が大勢いることを知る法悦の行になりました。

本年度は未来に向けての大きな一歩を踏み出しました。地球温暖化の影響を最前線で受けているインド北部の町、ラダックへの植樹は、現地の緑化活動に寄与しながら地球規模の変化を自分ごととして捉えるきっかけとなり、チベット仏教寺院との交流では、それぞれの土地で根付く仏教が、目まぐるしく変わる社会の中でいかに機能して



いけるのか意見交換を果たすなど多くの刺激と学びの機会を得ました。そして集大成となつたのが「禅フェス」です。当日は六十名の会員が結集し、予想を上回る来場者で会場があふれ返るといふ大反響の事業となりました。幅広い世代で仏教や禅が受け入れられ、また求められているということを知り、一人ひとりが肌で感じ、僧侶として、また寺院がこれからの時代にどう応えていくのかを考える機会になったのではと感じます。

今ようやく、六十周年のスローガン「曹福青 60th Reborn」新しい時代を禅力でひらく」との境地をしみじみと味わっています。一連の事業によってひらかれた先に何を見るのか、これからの当会と会員各位の活躍が教えてくれることでしょう。

# 曹福青創立60周年に寄せて

曹洞宗福島県事務所長

玉木 知頭 老師



曹洞宗福島県青年会創立六十周年誠にとおめでとうございます。

昭和三十七年産声をあ

げた青年会は、諸先輩や同胞、禅兄の方々の協力和情熱によって幾多の困難を乗り越えながら今に至っております。ご存じの通り、福島県は面積が北海道、岩手に次いで全国三位で、東西南北広範囲に及び移動時間もかなりかかります。役員会やカレンダー委員会などの会議は、一昔前は泊りがけで行った経験があり懐かしく思い出されます。現在は速道路網が発達して日帰りもでき、青年会の活動範囲も広くなり、「精進」等で諸兄のご活躍を拝見し、只々感服しております。これからも青年僧の若々しい目線で、宗門の将来像を語り合い、情熱を持って布教化に邁進されんことを願っております。

最後になりますが、青年会諸兄のご多幸とご健勝を冀い祝辞と致します。

平成24・25年度会長

富澤 秀樹 師



曹洞宗福島県青年会創立六十周年、誠にとおめでとうございます。

振り返りますと十年前

曹福青創立五十周年記念大会と併せて第三十八回東北地方集會「福島大会」の実行委員長として携わらせていただきました事、大変光栄で懐かしく思い出されます。『ふりかえれば未来』と題し、東日本大震災後のボランティア活動等を通して、『これまでの支「援」から、これからの支「縁」へ』について参加者皆さんと、これからの人と人のかかり合い「縁」を考え、心を一つに出来た大会だったと思います。

青年会活動を通して沢山の出会いや親交、そして活動と経験は貴重な財産となり、現在の拙寺の活動に大変役立っています。

どうぞ青年会会員の皆さん、目の前の「縁」を大切に、若い人の柔軟な発想で失敗を恐れず、更なる飛躍に向け精進をお願い致します。

末筆となりましたが曹洞宗福島県青年会の益々のご発展と会員各位のご活躍をご祈念申し上げます。

平成26・27年度会長

光英 覚法 師



昨年十月十五日に会津日新館で開催された「禅フェス」に小三の次男と伺いました。あいにくの

雨でしたが、来場者と一緒楽しんでる会員の皆さんの様子を見て、この活動こそが、青年会でないといけないものだと思います。一人や一ヶ寺では難しいことを、皆で協力しあって実践している姿が禅フェスの中で感じ、曹福青の未来を感じることができました。

今も昔も、世間からのお寺への批判も多いかもしれませんが、それは期待をしている証拠かもしれません。その期待へ応えていく為の学ぶ場が、青年会ではないでしょうか。いろいろな人との出会いがあるのも、強みかと思えます。

禅フェスで出会った「お坊さんDJ」には圧巻でした。僧侶だけではなく、何かの特技を身に付けていくことも、これからのお寺には必要かと感じました。青年会を退会して何年か経ちますが、これからも、時代に合わせて、アップグレードしていき、OBを刺激するような活動に期待しております。共に精進していきましよう。

平成28・29年度会長

瀧澤 勝俊 師



曹福青創立六十周年誠にとおめでとうございます。私にとつての青年会

は、沢山の熱き情熱と行動力の諸先輩方に圧倒され、刺激を受けすぎた二十代。東北、全国の青年僧と研鑽しあつた三十代。県内会員と共に次世代に繋げた四十代。といった処でしょうか。どれも良き思い出ばかりです。

東日本大震災やコロナ禍等、その出来事の度に、青年会活動の強さや団結力、しなやかさを見せつけられ、私の励みにもなってきました。

これからの日本や世界においても、曹洞禅の精神的影響は益々大きくなっていくでしょう。『叢林』という表現がありますが、青年会という自己の成長出来る場所に積極的に関わり持ち、常に様々な問題に立ち向かっていくような青年僧に育って欲しいと望んでおります。

次の十年二十年へ向けて、更なる発展と会員の皆様のご活躍をご祈念申し上げます。

平成30・令和元年度会長

中野 禅隆 師



曹福青創立六十周年、誠にとおめでとうございます。元々、先頭に立ち、人を

が苦手な私が、巡りあわせて会長を勤めることになり、当時の会員の皆さんには、色々ご迷惑をお掛けしたと思います。

振り返れば、任期中に東北地協福島大会を開催したことが一番の思い出です。夜回り先生こと水谷修先生の講演。竹原ピストルさんと福島のアーティストで結成されたチェリーボーイズによる東日本大震災遺児への支援を目的としたチャリティイベントを開催しました。ほぼ私の思いのままに突っ走ったようなもので、事務局はじめ会員の皆さんには感謝の念しかありません。

現会員の皆さんに自分勝手にやってきた私が、何か言えることはありません。ただ思うままに、やりたいようにやれば良いと思います。皆さんが青年会活動の中での様々な経験を通して、理想とする僧侶になれるように陰ながらお祈り申し上げます。

令和2・3年度会長

矢内 大丘 師



曹洞宗福島県青年会創立六十周年おめでとうございます。今思い起こせば、まだ青年会活動とはど

ういうものなのかさえよくわからないままに参加した『精進』誌の編集会議、委員の皆さんの編集にかけ熱い思いに圧倒されたのが記憶に残る一番始めの思い出です。以来、いろいろな方のお世話になりながら、ボランティア活動やカレンダーの制作など、多くのことに参加し学ばせていただきました。

近年、急速な人口減少の進行に伴ってこれまで地域共同体の中核として当たり前のよう存在してきた寺社の消滅の可能性すら議論されるようになっていきます。宗教離れといわれて久しいですが、これから先の時代にはこれ以上以上に厳しい困難が待ち構えていることは容易に想像が付きまします。しかし困難だからこそ、新たな希望が生まれるのも世の常で、それを生み出すのはきつと皆さんのような若い世代です。青年会はともに成長できる素晴らしい場だと思えます。その中で学んだことを生かしながら、自分自身に誇りを持って、怖れずに前に進んでいってください。

～各種ワークショップ～



数珠ブレスレット (県北担当)



写経 (県南・宮城曹青担当)



キャンドルすくい (相双担当)



キャンドル作り (相双担当)



トートバック作り (会津担当)



ヨガ体験



弓道体験



お坊さんと遊ぼう (県中担当)

来場者には、禅フェスのテーマでもある「日々是好日」の文字が入ったリストバンドを記念にプレゼントしました。ワークショップは各支部が仏教や僧侶に親んでもらえるよう趣向を凝らしたブースを構えた他、全国曹洞宗青年会、宮城曹洞宗青年会、さらに寺族や一般の皆様からもご協力を頂き、たくさんの体験ブースを用意することができました。1時間待ちのワークショップもあるなど、各ブースが人でにぎわい、子どもから大人まで笑顔溢れる空間が広がっていました。  
【ワークショップ・制作物担当 本田和也 記】



だるま絵付け体験 (全曹青担当)



限定御朱印も人気



県内御朱印マップ

オープニング～大般若祈禱&書道パフォーマンス～



雨が降りしきる中、多くの方が大般若祈禱に参列



会長夫人佐藤紘子さんによる書道パフォーマンス

～坐禅・法話ブース～



僧堂を再現し、本格的な坐禅体験

坐禅&法話は支部の担当制で計6回行われました。初めて坐禅を体験する方や坐禅を目当てに禅フェスに参加された方も多く、坐禅人気の高さが伺えました。止静鐘を鳴らすと皆さん静かに坐られ、心と身体の調和を感じていたようです。中には警策を希望する方もおり、警策が入る音が静かな会場に響いていました。法話の時間では皆さん真面目な面持ちで聞いており、時折笑顔も見られました。参加者は一様に満足していただけたようで、坐禅や法話を一般の方に届けるいい機会となりました。

【坐禅・法話ブース担当 井上順平 記】

～法話担当者～

- 県北回 高山光正師・吉岡統親師
- 会津回 井上順平師・黒金泰寛師
- 県中回 廣瀬秀保師・竹内寛道師
- 県南回 根本英法師・野田晃平師
- いわき回 三田大芳師・佐藤泰典師
- 相双回 島村哲哉師・星見元耀師



各回2名、12名が法話を担当

～ステージパフォーマンス～



雅楽の演奏



DJ K.R.G



声明と尺八



会津混声合唱団



チーム獅～レオ～



會津田島太鼓

60周年事業企画計画準備の0ベースから集大成の禅フェス「楽しい寺子屋」までの約2年半、多くの御縁と大変貴重な経験をさせていただきました。白虎隊の学び舎「会津藩校日新館」をお借りしての禅フェスでは音楽を担当。オープニングの大般若法要からフィナーレまで、寒い中でもありながら、来場者の方にも楽しんでいただけて本当に良かったと思います。ステージイベントの出演者の方々も、雨で衣装や持ち込んだ道具等、濡れるおそれがあるにもかかわらず、嫌な顔一つせず会場を盛り上げてくださりました。私自身も音楽担当として全く緊張もせず、好きにやらせていただけたので楽しめました。また、禅フェスに向けて制作したスタッフTシャツも、来場者の方や出演者の方にも一目で青年僧だとわかっていただけるとの一体感がもてる仕上がりになり、とてもよかったです。ここがゴールではなくスタートとして、今後も繋げて行っていただけたらと思います。

【ステージ・頒布物担当 荒井浩之 記】



フィナーレ 会長挨拶



ご詠歌奉詠

～禅の食事体験～ 『5つのいただきます』



記念冊子の表紙



食と向き合う貴重な体験



禅の食事体験の様子

60周年記念の冊子として「5つのいただきます」を制作しました。この冊子は、「五観の偈」を元に、幼稚園児から、小学生、さらに大人まで幅広い年代に伝わるよう、言葉を考え、挿絵を入れて絵本のような仕上がりになりました。お米にスポットを当て、「五観の偈」をもとに、①はどれだけの人の手が加わったかの感謝。②大切な命を頂く反省。③食事を頂く姿勢、心の持ち方。④食事から得られる効能。⑤夢や目標にむかって一生懸命に頑張り、みんなの為になる事を考えて行動する誓いの心。の構成になっています。

禅フェスでは、この冊子を教材として「禅の食事体験」を実施しました。多くの皆様に禅の食事作法を通して「いのちをいただく」ことについて考え、感じていただきました。

この冊子は坐禅会や食育講座などで使用いただけるように制作しています。現代のSDGsにも通じるものでフードロスや貧困などの問題解決に向けて思いめぐらせてもらうきっかけとして、多くの人に手に取ってもらえればと思います。冊子をご用命の方は当会事務局までご連絡ください。

【60周年記念誌担当 武田良典 記】

## 会員の声 (アンケートより抜粋)

反響が予想以上でそのことを知れただけでも実施した甲斐があった。いかに仏教が求められ、我々がもっているコンテンツが魅力的かということも多く会員と共有できた意味は大きい。【41歳以上、会津支部】

みんなの、頑張ろうという気持ちがとても感じられて良かったと思います。【41歳以上、県中支部】

私の知り合いが来てくれた感想として、食育を学べたり坐禅をしたり数珠プレスレットを作れたり中々触れることの無い仏教に触れられて良かった。【26～30歳、県北支部】

仏教の捉え方、考え方に変化は出ました、普段出会わない意欲的に仏教に興味を持つ方や、そもそも県の青年会の方々とは会話出来た事。全体を通して良い経験になりました。【26～30歳、県中支部】

偶然隣り合って座った方同士、ことを同じくする作業を通して会話と笑顔が生まれる姿が印象に残った。【41歳以上、県北支部】

来場者も長い時間滞在する方が多く、実来場者数よりも賑わって見えたのはひとえに各支部のブースが魅力的であったことに他ならないと思う。また、日新館とDJブースの親和性が自分が思っていたよりもずっと高く、フェスという雰囲気を構築することに大きな役割を担っていたように思う。【41歳以上、県北支部】

諸事情により不参加でしたが、参加者に禅フェスの話を伺い、天候に恵まれない中、たくさんの方に集まっていたこと、福島県の曹青のみなさまの熱意が実となったことを嬉しく思いました。この活動がこれからも継続することを願います。【26～30歳、県北支部】

大変お客様も来られていて、素晴らしいイベントでした。限定御朱印も盛況で良いアイデアでした。準備や構想等とても時間と労力をかけていらっしやっただけでなく前からの事前準備が大事だったフェスだったと思います。本当にお疲れ様でした。【31～35歳、会津支部】

この経験や気づきを各自寺坊の活動に生かすことで地域に還元出来ればいいのではないのでしょうか！  
【41歳以上、県南支部】

予想以上に来場者が多く、お祭りのようでとても楽しかったです。印象的だったのはすごく若い方が遺影撮影を申し込まれたり、悩み相談の申し込み関係で受付でお墓の相談が始まったりしたことです。自分では思ってもいない所に需要があるのだな、と思いました。【26～30歳、県北支部】

忘れていた何かを思い出す事ができた。  
そして、沢山のご縁をいただいた。  
【36～40歳、県北支部】

仏教が求められているのはなんとなく頭では分かっていましたが、今回を通して体で体感することができ、少し自分の芯が強くなったように思います。  
【41歳以上、会津支部】

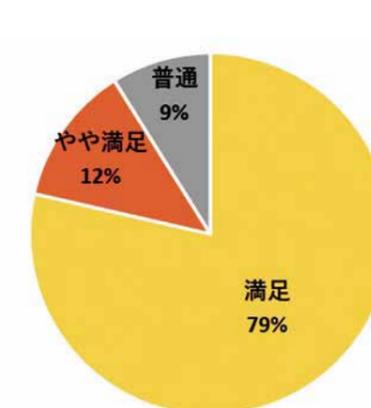
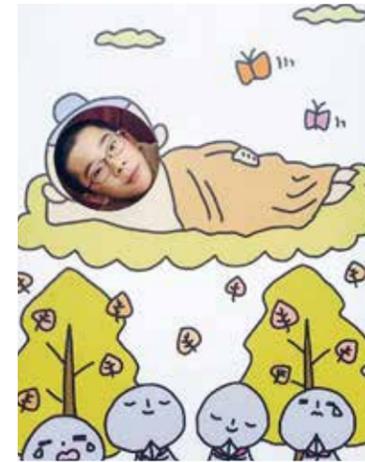
当日は雨となり残念な思いもありましたが、開会宣言の「日々是好日」の精神で、そんな中でも楽しむことができました。最後には天候も回復し、予定通りフィナーレが行えたことは、非常に感慨深かったです。【36～40歳、会津支部】

自分の役割は、支部ブース担当・声明・坐禅・法話・御詠歌と負担が大きかったと感じているが、それと同時に充実感もあったと思う。  
【41歳以上、相双支部】

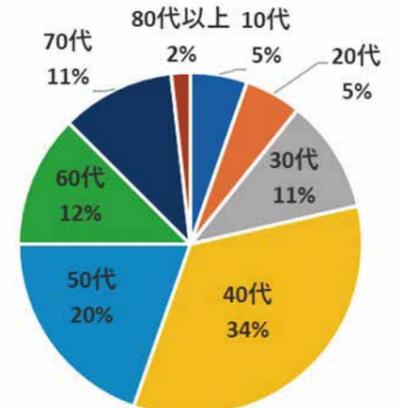
天候が悪い中、多くの方に来ていただけて嬉しかったです。このようなお檀家さん以外の方とお話できる機会は、とても貴重だと思いました。【25歳以下、会津支部】



## 来場者 アンケート

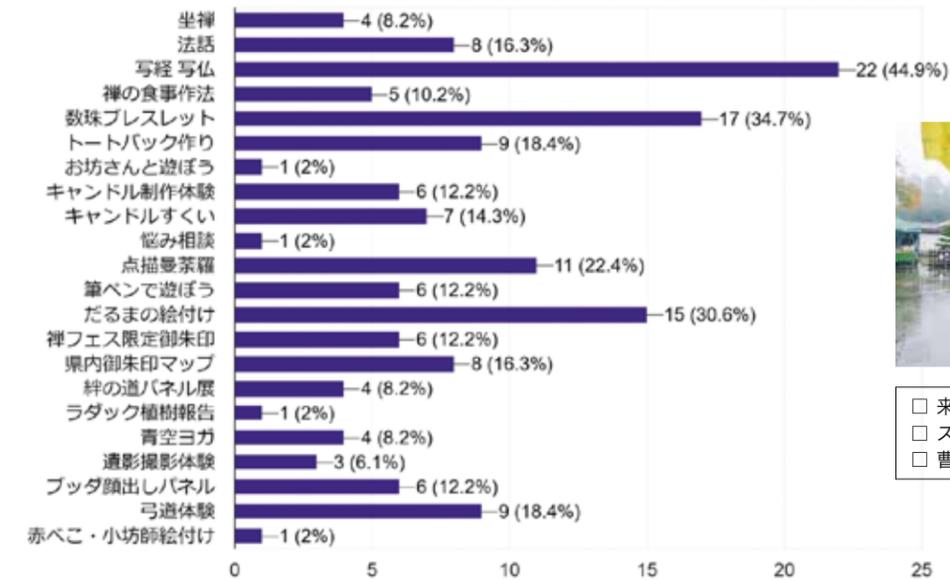


参加者満足度



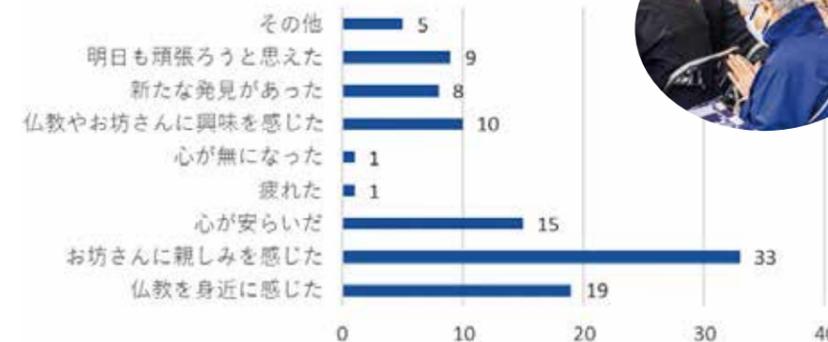
参加者の年代

### 来場者体験ブース



□ 来場者：約600人  
□ ステージ・ブース関係者：約90人  
□ 曹福青会員：約60人

### 禅フェスに参加した感想



曹福青代表団がインドラダック地方のマトー村への植樹を行ってから半年以上経過し、植えた木々は順調に育っています。また、今回の植樹は土地の緑化だけでなく様々なものを現地にもたらしたとの評価も届いています。現地とのつながりを継続することで、地球環境変化の最前線やそこに根付く仏教がどのように社会と関わるかを知ることができ、当会の気づきや学びの機会になっていくと期待しています。

今回のプロジェクトが現地ラダックでどのように受け止められ、何をもたらしたのか？  
現地有力者の声をお届けします。



マトー僧院僧長  
ティンレス・チョサル師

「現代を生きる私たちが罹りやすい病があります。人と人の中でコミュニケーションが不足し、悩みや迷いを打ち明けられず、生きることに失望してしまうことです。命を絶ってしまう人もいます。今回、日本の僧侶の皆さんと交流したことで、学んだことが多くあります。外部の人々と交流し、互いの文化を知ること、理解に努めることは、私たち自身の暮らし、文化を見直すことにつながります。なぜ日本の僧侶のみなさんがはるばるラダックに来て木を植えてくれたのか。それはラダックに興味をもってくれたことがきっかけです。私はそれをとても嬉しく思いました。」

私たちが生きている地球環境は、壊れていっており、もう少し手遅れかもしれないと思っています。ですが、生きていくためには守っていかなければなりません。今回の植樹は、砂漠を小さな森にしていこうという試みです。マトー僧院も少しずつ緑を増やしてきましたが、日本の僧侶のみなさんの協力、そして、その発案に賛同してくれたラダック自治政府の助力で、規模がとて大きくなりました。取り組みを今後も継続していくことが大事です。森の生育にみなさんにも携わっていただき、それが更なる交流を生み、失望という病が遠いものとなりますよう。村の皆さん、僧院、両者が協力し、マトー村の取り組みをモデルケースとしていきたいと思います。」

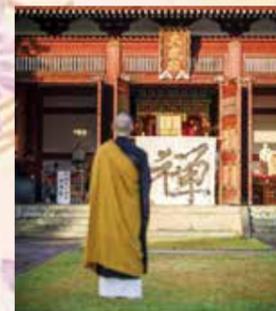
「岩山に覆われ、緑の少ないラダックにおいて、緑が増えていくことはこれからのラダックの自然環境にとって必要不可欠な活動です。特に水不足が懸念される現在、木々を植え、地下水が涵養されることが期待できます。また、誰もが訪れることができる場所に植樹されたことで子どもたちが木の成長をつぶさに見ることができることも素晴らしい点です。自分達を取り巻く環境について若者が学ぶことができるからです。子どもたちがこのような活動に参加し、学ぶことで、ラダックを牽引していく存在となり、発展に寄与してくれることでしょう。日本からわざわざ来て植樹してくれたこと、村人、僧院の協力にも感謝します。素晴らしい活動です。」



ラダック連邦直轄領  
B. D. ミシュラ知事



順調に生育している苗木の様子



2年間という準備期間を経て、曹洞宗福島県青年会最大のイベントとして「ふくしま禅フェス～楽しい寺子屋～」実施することが出来ました。このイベントの柱は、どんな困難なことにも、支え合い切磋琢磨することで乗り越えることが出来る、ということだったと思います。幾度も会議を重ね、常にあった反対意見と向き合い、どうしたら成功にたどり着けるかを全員で考え抜きました。迎えた当日は土砂降り。しかしながら、しっかりと準備してきたことで問題にもならず、自分たちのブースに集中しつつも、様々にあった問題に対し各々が即座に判断し、連絡を取り合い、補い合いことで解決できました。支部・役職・年齢と各々の垣根を越え、幾度となく話し合い向き合ったことでこれからの青年会活動への希望が見えた気がしました。これは、成功云々よりもっと大事なことだと思えます。このフェスに向けた2年間で、青年会が本当の意味で1つになったイベントだったと思います。

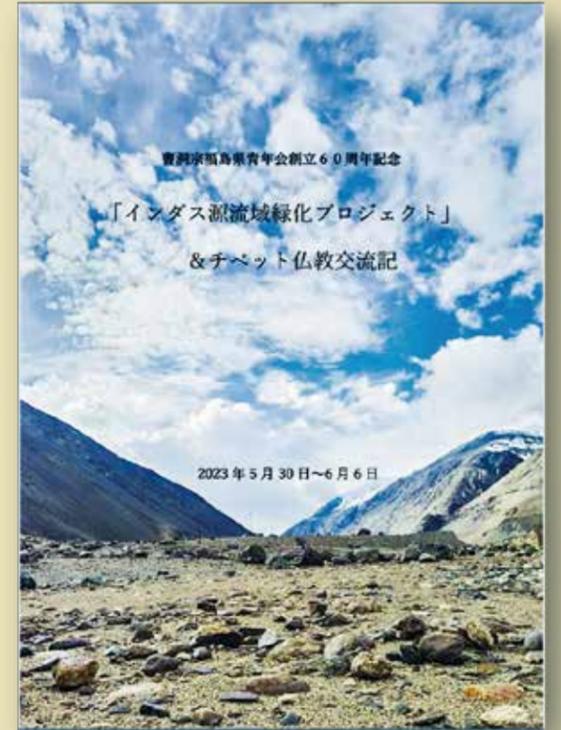
【会場運営担当 高橋浩紀 記】

年	月	日	出来事・活動
昭和34年	8月5日		猪苗代町・観音寺にて、曹洞宗福島県青年会の前身となる青年部会の第一回部会が開催。
昭和39年	8月1日	3日	第一回禪のつどいが須賀川市・長祿寺において開催。 (禪のつどい終了後、曹洞宗福島県青年会が発足)
昭和50年	3月31日		第一回総会を開催。
昭和52年	6月		会報誌「精進」第一号発行。県北・県中・県南・会津・浜通りの五支部を編成。
昭和54年	5月		浜通り支部を相双支部・いわき支部に分割。以後六支部制。
昭和56年	10月25	26日	ホテル聚楽にて第四回曹洞宗青年会東北地方集會福島大会を開催。
昭和58年	秋		委員会制度を廃止、執行部および六支部長からなる役員会に再編。 初の禪語巻を制作(各支部老師の書)。
昭和60年	11月11	13日	曹洞宗福島県青年会創立二十周年記念式典を開催。
昭和62年	2月18日	3月2日	インド仏跡巡拝旅行(曹福青創立二十周年記念事業)。
昭和63年	9月29	30日	ホテル東風にて第十二回曹洞宗青年会東北地方集會福島大会を開催。
昭和68年	11月27	28日	栄楽館にて曹福青二十五周年記念大会を開催。
平成2年	7月20日		郡山グランドホテルにて修証義公布百周年記念講演会を開催。
平成3年	11月6日		会報「精進」第五号発行。
平成7年	10月	12月	曹福青創立三十周年記念事業講演を県内六会場にて開催。
平成11年	11月6	7日	郡山ビューホテルアネックスにて第二十回曹洞宗青年会東北地方集會福島大会を開催。
平成13年	11月23	27日	郡山ビューホテルアネックスにて曹福青創立三十周年記念大会を開催。
平成15年	11月18	19日	広度寺にて報恩大授戒会を厳修(戒師板橋興宗禪師、戒弟約三百名)。
平成16年	11月17	18日	ホテルハマツにて第二十六回曹洞宗青年会東北地方集會福島大会を開催。
平成19年	11月14	15日	ホテル華の湯にて曹福青創立四十周年記念大会を開催。
平成21年	11月17	18日	新潟県中越地震炊き出しボランティアを実施。
平成23年	11月8日		パルセイロいざかにて三管区合同全曹福青創立三十周年記念事業福島大会を開催。
平成24年	11月11日		ホテル聚楽にて第三十二回曹洞宗青年会東北地方集會福島大会を開催。
平成25年	11月19日		布教化事業「禪に親しむ」を県内四会場において開催。
平成27年	3月11日		東日本大震災被災地復興支援活動を展開(平成二十五年三月まで延べ二百九十回)。
平成28年	3月11日		海蔵寺にて東日本大震災一周年忌供養、復興祈願法要を厳修。
平成29年	3月11日		郡山ビューホテルアネックスにて曹洞宗福島県青年会五十周年記念式典、第三十八回曹洞宗青年会東北地方集會福島大会を開催。
令和元年	10月22日		相双地区にて東日本大震災慰霊碑行脚を実施(以後現在まで継続中)。
令和4年	9月		「精進」第百号を発行。
令和5年	3月11日		郡山市民文化センターにて東日本大震災七回忌法要、復興祈願法要を厳修。 福島県テラスにて第四十四回東北地方集會福島大会を開催。 東日本大震災十三回忌奉讀事業「福島浜街道絆の道」慰霊行脚を実施(全十三回、約百二十回)。 相馬市・ほこだて仏光堂にて東日本大震災十三回忌慰霊法要を厳修。

曹福青 六十年のあゆみ

出来事・活動

「インダス源流域緑化プロジェクト」  
&チベット仏教交流記



六十周年記念植樹の記録誌が完成しました。チベット仏教寺院との交流や植樹の様子に加え、現地での取り組みや大自然などを現地へ赴いた七名がレポートとしてまとめています。HP上からご覧いただけますのでぜひ一読ください。



青年僧 200万歩の祈り  
～東日本大震災13回忌慰霊の記録～



昨年度、半年かけて行いました福島浜街道慰霊行脚「絆の道」及び東日本大震災十三回忌法要の全容をまとめたドキュメンタリー動画が完成しました。ぜひ、ご視聴ください。



六十周年を終えて

副会長 内藤 宏信

青年会の可能性を存分に感じる六十周年事業だったと振り返っております。少子高齢化や過疎化などお寺の存続が危ぶまれ、仏教が転換期を迎えていることは多くの会員が感じているところです。人口減による過疎、檀家減少をはじめとする寺院を取り巻く環境の変化、自然災害における支援活動の取り組み、孤独へ追い込まない社会づくりなど、我々が取り組む諸問題は、そのまま社会全体の問題であり、現代社会からの要請でもあろうかと思えます。今回の六十周年事業は、その社会からの要請に応えるために、会員一人ひとりが「私に何ができるのか?」と自分に問いかけながら考えてきた結果だと思えますし、これまでの活動にとられることなく、時代に即した、新しく柔軟な取り組みは、青年会が社会の要請に応えられる可能性を大いに感じられるものでした。これは若い世代の皆様とともに活動できる青年会だからこそです。

曹洞宗福島県青年会六十周年をふりかえって

副会長 村上 徹信

令和三年度六十周年準備委員会から始まった二連の六十周年記念事業は、令和四年に迎えた東日本大震災十三回忌法要、インドラタック研修旅行、禅フェスの三事業を大きな柱として展開することができたことは、青年会を牽引する佐藤会長は勿論のこと、執行部会員の皆様のおかげと心より御礼申し上げます。ひとつひとつを数え上げるときりがありませんが、この三事業を主軸とし、その他にもロゴマークの制定、ホームページ作成等、新しく挑戦したことも多いように感じます。Rebornと六十周年のテーマを決め、青年会発足時の想いを原点に戻し、青年僧のうちにしかできないことを、青年僧のうちだからできることを模索しながら、企画し遂行していくことができました。また、先般の令和六年能登半島地震は勿論のこと、令和五年には、台風十三号に係る水害においても、ボランティア活動を展開し、災害救援を実行することができたことは、今後、青年会を活動するにあたっての大きな指針になったのではないかと思います。

# 支部だより

## 県北

一月十四日に福島市仏教青年会主催の能登半島地震義援鉢が福島駅前で行われ、県北支部からも有志会員が参加しました。私も十三年前の被災を思い出し、また当時福島に寄せられた多くの支援に對してお返しする思いを持って鉢に臨みました。ありがたいことに沢山の方に足を止めていただき、多くの義援金を被災地に贈ることができました。



二月十五日には釈尊涅槃会を桑折町松原寺様にて修行し、引き続き能登半島地震被災物故者供養法要を行いました。参加者は皆、亡くなられた御霊に深甚なる弔意を捧げ被災地の復興を祈念いたしました。  
(県北支部 清水清孝 記)

## 県中

県中青年会では十一月一日に郡山市仏教会主催である、東山霊園仏舍利塔供養に例年同様随喜致しました。法要後には引き続き無縁墓地のご供養も行いました。



また、十二月四日には郡山市仏教会主催の歳末助け合い鉢に参加しました。今年も郡山駅前方面とうすい百貨店前の二手に別れて一時間ほど呼びかけをしました。去年と同じく十二月にしては気温が高く穏やかな日でありました。貴重な御浄財をお納めいただいた方々には誠に感謝の意を申し上げます。仏舍利塔・無縁墓地供養、鉢とともに来年少も引き続き参加していきたいと思います。



十二月五日には忘年会も行いました。場所は郡山市駅前にある極品火鍋しゃぶしゃぶ店です。筆者は火鍋の店に行くのは初めてだったため、その辛さに衝撃でしたがとても楽しめました。  
(県中支部 木町元風 記)

## 県南

去る十二月四日、石川町、長泉寺様を会場に接心・成道会並びに歳末助け合い協賛鉢を修行致しました。まずは、会員全員で坐禅を行い、心身共に整えた後、成道会を厳修いたしました。会場となりました長泉寺様の御任職である西川一英老師に法要の導師をお勤め頂き、お釈迦様の成道なされたことへの感謝と報恩の誠を捧げさせて頂きました。



法要の後、身支度を整え、石川町町内にて鉢を行いました。師走の晴天のもと、皆様から浄財を頂きました。お寄せ頂いた浄財は、歳末助け合い募金として石川町社会福祉協議会様へ全額寄付させて頂きました。



なお、この度の能登半島地震をうけて、支部では会員に浄財を募り、被災された方々への救援や支援活動への助成となる様、赤い羽根共同募金を通じて支援金をお届け致しました。一日も早く復興出来るよう、私たちに出来ることを今後も継続してまいります。  
(県南支部 長谷川 俊隆 記)

## 相双

令和五年十一月十四日、支部会員本田和也師にご長男「侑士くん」が産まれました。本田師よりコメント「新しく家族が増え、賑やかな日々を過ごしております。これからも親子共々、宜しくお願い致します。」

十二月三十一日、南相馬市千相院にて「おおみそか、ひるのかね」が開催されました。子ども達も鐘つきしやすいう会員の島村哲哉師が十年前から始めたものです。今回参詣者は百名を超え、炭火焼き芋や甘酒の振る舞いも好評でした。また、地元の有志の協力により、境内がライトアップされ、幻想的な風景となりました。



令和六年二月二十二日、支部会員で集まりを設け、次年度の行事や役員について話し合いました。今年初めての会合となり、会員内で親睦を深めながら、退会が近い矢内大丘師に花などを贈呈しました。大丘師よりコメント「平成十七年に青年会に入会させていただいて以来、長い間本当にお世話になりました。東日本大震災などの忘れることのできない災害もありましたが、青年会活動を通して多くのことを学ばせていただき、楽しい思い出ばかりが浮かんでいきます。皆さま長い間本当にありがとうございました。」  
(相双支部 斎藤紹俊 記)

## いわき



いわきでは昨年九月八日に台風十三号による浸水被害が市内各所で発生、多くの檀信徒の自宅や寺院建物の一部で浸水の被害に見舞われた。十月四日には県曹青会員有志が被害が多かった市内内郷地区にて片付けの応援に来て頂いた。ご助力感謝申し上げます。

十二月四日、会員白石龍一師のご母堂で長谷寺族の白石のり子様が大晦日により薬石効なくご逝去された。会員一同、火葬速夜葬儀に随喜させて頂いた。お悔やみ申し上げます。

十二月二十四日には毎年恒例歳末助け合い鉢をいわき仏教青年会(曹洞宗+浄土宗+真言宗智山派各青年会)として、市内エリアで開催、市民から多くの浄財をお預かりし、市社会福祉協議会に納めました。



十二月三十一日には会員医王寺様にて大晦日ZENマルシェが開催。献灯や法要、坐禅、出店などが行われ、約五十名の善男女が参加した。

元日に発生した能登半島地震には当支部より県曹青副会長でもある村上徹信師が輪島市門前町の炊き出しボランティアとして活動させて頂きました。  
(いわき支部 福羽敦正 記)

## 会津



令和五年十月十五日に開催された「ふくしま禅フェス」での企画として、「お坊さんの彫った消しゴムハンコでオリジナルトートバッグ作りをしよう!」というワークショップを行いました。消しゴムハンコは自分たちの手で彫り、その他の準備も会員一丸となり行いました。当日は子供を中心に多くの方々に体験させて頂き、ワークショップは大盛況の内に幕を閉じました。

また十二月四日には毎年恒例の歳末助け合い鉢を会津若松市内にて行いました。今年は天候にも恵まれ、商店街などで待つていた多くの方々から沢山の浄財を頂きました。会津支部が長い間続けているこの年末の恒例行事は、会津若松市内の皆様にとっても大切な行事になってきているのだと感慨深く思いました。



今年度会津支部は新会員の加入がありました。これからはさらに充実した青年会活動をしていきます。

(会津支部 新保宗嗣 記)

令和5年度 協賛寺院一覧

教区	寺籍番号	寺院名	市町村名	教区	寺籍番号	寺院名	市町村名	教区	寺籍番号	寺院名	市町村名
1	2	長楽寺	福島市	5	122	慈恩寺	郡山市	15	261	妙高院	いわき市
	3	陽林寺	福島市		125	勝音寺	郡山市		274	龍門寺	いわき市
	7	清水寺	福島市		127	満福寺	郡山市		275	性源寺	いわき市
	8	白山寺	福島市		131	天性寺	郡山市		285	医王寺	いわき市
	11	宝勝寺	福島市		143	西光寺	郡山市		289	弘源寺	いわき市
	13	陽泉寺	福島市		481	大有寺	郡山市		295	高萩院	いわき市
	14	円通寺	福島市	6	123	金剛院	須賀川市		297	蘭秀寺	いわき市
	19	常円寺	福島市		149	關川寺	白河市		300	瑞光寺	いわき市
	25	安洞院	福島市		151	常在院	白河市		304	梵音寺	いわき市
	35	長秀院	福島市	7	153	長壽院	白河市		310	観音寺	猪苗代町
	486	普門院	福島市		156	大龍寺	西郷村		312	天徳寺	猪苗代町
	41	石雲寺	本宮市		162	昌建寺	泉崎村		314	隣松院	猪苗代町
	42	龍泉寺	二本松市		165	月心院	白河市		315	長泉寺	喜多方市
2	46	龍傳寺	本宮市	173	長慶寺	白河市	321	観音寺	喜多方市		
	49	大泉寺	二本松市	181	安養寺	郡山市	337	示現寺	喜多方市		
	54	高林寺	二本松市	8	184	金昌寺	郡山市	340	慶徳寺	喜多方市	
	58	西泉寺	二本松市		185	長興寺	郡山市	343	西勝寺	西会津町	
	62	仙林寺	伊達市	176	州傳寺	三春町	350	久昌寺	喜多方市		
	71	寶壽寺	伊達市	178	廣度寺	郡山市	352	大同寺	喜多方市		
3	74	洞雲寺	伊達市	9	183	慶長寺	田村市	370	秀長寺	会津若松市	
	79	西松寺	伊達市		179	保泉寺	小野町	372	恵倫寺	会津若松市	
	83	最禪寺	国見町	11	196	剛叟寺	田村市	373	泰雲寺	会津若松市	
	84	福源寺	伊達市		239	永昌寺	浅川町	376	紫雲寺	会津若松市	
	90	明光寺	国見町		246	長徳寺	浅川町	390	常金寺	会津若松市	
	93	長光寺	伊達市	12	227	龍台寺	古殿町	391	長福寺	会津若松市	
	98	常泉寺	川俣町		242	龍澤寺	塙町	400	定林寺	会津坂下町	
99	茂林寺	伊達市	13	254	同慶寺	南相馬市	405	勝方寺	会津坂下町		
101	成林寺	伊達市		255	新祥寺	南相馬市	406	浄泉寺	会津坂下町		
103	小国寺	伊達市		257	岩屋寺	南相馬市	436	長福寺	会津美里町		
4	104	成願寺	伊達市	14	258	龍昌寺	新地町	461	正法寺	昭和村	
	111	普光寺	伊達市		263	慶徳寺	相馬市	470	西隆寺	三島町	
	50	常圓寺	郡山市		265	法輪寺	新地町	471	大泉寺	南会津町	
	119	長泉寺	郡山市		266	洞雲寺	相馬市	298	長谷寺	いわき市	
5	121	長泉寺	郡山市	267	東禅寺	広野町	長野県 検校庵 茅野市				

令和5年度 退会者

県北	安楽寺	本間 大元 師
県中	天性寺	高橋 浩紀 師
県南	長徳寺	根本 英法 師
会津	金剛院	大谷 眞城 師
会津	西光寺	佐藤 泰典 師
相双	秀長寺	竹内 正龍 師
	長福寺	矢内 大丘 師

長年に亘り青年会活動にご尽力頂き、心より感謝申し上げます



いわき豪雨ボランティア

九月八日に発生した台風十三号の影響に伴い、いわき市で発生した豪雨災害に対してのボランティア活動に九月十四日(木)に十一名で参加いたしました。活動内容はいわき市ボランティアアセンターからニーズをいただき、要援護者(一人暮らしの高齢者、高齢者のみの世帯、障がい者世帯等)を優先に室内の片付け、家具の移動、水害ごみの分別及び集積所までの運搬、泥だし等となりました。暑い中ではありましたが、大きなトラブルや怪我もなく無事に終えることができました。また、十月四日(水)二回目のボランティア活動に九名で参加いたしました。雨天のため、屋外のニーズが少なく、一件のニーズをいただきましたが、全員で活動したのが、午前中で作業終了いたしました。



(事務局長 井上 順平 記)

能登地震ボランティア

二月七日から九日にかけて炊出し活動のため石川県輪島市に伺いました。震災直後より同市に入り支援を継続しているシャントイ国際ボランティア会及び全国曹洞宗青年会からの要請に基づく活動で、八日の昼食と夕食を提供させていただきました。七日早朝に会津若松市を出発、北陸道経由で約七時間かけ羽咋市の古刹永光寺様に入ります。典座寮をお借りして仕込みを行い、そのまま山内に宿泊。翌朝、大本山總持寺祖院様門前にある避難所を目指しました。門前には計三カ所の避難所があり、昼食二〇一名分、夕食二三名分を調理し、夕方、現地を後にしました。ご高齢の方が多数避難所であることから事前に「量は少なく、味付けは薄く」というご要望を受けており、その点を十分に配慮しながら準備を進めました。今後の住環境移行に伴い、現地ニーズは個別具体的になることが予想されます。これから当会は、現地の声に寄り添った、肌理の細かい支援活動を続けてまいります。



(県北支部 佐藤 正乗 記)

東日本大震災慰霊碑供養

東日本大震災発災から十三年が経過した三月十一日(月)、会員三十五名で南相馬市、相馬市にある四か所の震災慰霊碑にて慰霊法要を行いました。この慰霊碑供養は継続して行っている活動で、南相馬市の南萱浜慰霊碑では新祥寺住職野田精顕老師、下渋佐寄り添い地蔵では会長の佐藤泰典師、鳥崎慰霊碑では陽山寺住職石井秀芳老師、相馬市の原釜慰霊碑では相双支部の矢内大丘師が導師を務め、参列した遺族の方々と共に亡くなられた方々の御霊に祈りを捧げました。移動中に一面に広がるソーラーパネルや高い防波堤など震災前はなかったものが目に入り震災からの復興を感じることができました。被災された方々の悲しみが無くなることはありません。これからも震災を風化させないよう、県内僧侶として出来る限り被災された方々の心に寄り添い続けていきたいと思っております。



(事務局長 井上 順平 記)